

令和5年度東大和市立郷土博物館協議会委員会議

会 議 次 第

日 時：令和6年3月22日（金）

午前10時から

場 所：郷土博物館会議室

議題

1 令和5年度・令和6年度郷土博物館事業について（資料）

2 その他

令和5年度東大和市立郷土博物館協議会委員会議（要旨）

開催日時：令和5年3月22日（金）午前10時00分～11時30分

開催場所：東大和市立郷土博物館 会議室

出席委員：川瀬徹委員 目黒トシ子委員 西川晴美委員 中村耕委員 神野善治委員 佐藤千とせ委員 宮崎佑介委員 7名

欠席委員：立川裕委員 加藤進委員 2名

事務局：岩野生涯学習課長・坂本郷土博物館長・阿部主任

○生涯学習課長より挨拶

○職員紹介

○議題 令和5年度・令和6年度郷土博物館事業について

事務局：資料をもとに令和5年度・6年度の郷土博物館事業について説明。

委員：小学3年生の授業で「昔の道具調べ」はどのように実施しているか。

事務局：①学芸員が選んだ道具の説明をし、児童が実際に触ったりしながら学習している。②また、郷土博物館2階の常設展示に昭和と平成の東大和市の航空写真あるので、写真を見比べる学習と2階の展示を使ったクイズを行っている。③毎年テーマを変えて道具の体験をしている。今年は抱っこ紐、以前にはランプの体験を行った。他にも三小では麦を栽培して、粉を引いてうどんを作る体験もしている。

委員：民具の学習は中学生くらいになると歴史と民具の変遷について考えられるようになるが、小学生ではそこまでできずに道具の紹介で終わってしまいがち。全国的にも地域の民具の学習は小学生のカリキュラムではあるが、中学生にも展開できるとよい。

委員：麦というと、この辺りではそばを栽培している方もいる。麦だけでなく、そばや綿などにも触れる機会があるとよい。

委員：学校連携を拓げるためにホームページを活用できるとよい。ホームページに収集品のリストや解説があるとそこから調べ学習に発展することも考えられる。口コミなどの広報も重要。新聞記者とうまく交流できると地方欄で取り上げてもらう機会も増える。

委員：学校関連は、学校、児童、生徒だけでなく、保護者の理解も必要なので、対外的にPRするには難しい面もあると思う。ただ、博物館と学校の連携がもっと広がってい

くことは大事。

委員：学校との連携という面では、白梅学園では博物館課程がなくなるということもあったが、個別の教員同士のコミュニティなどもあるので、学校単位だけでなく、教員個人単位でも情報提供ができるとよいと思った。自身も委員として協力したい。

話は変わるが、保存庫の空き状況はどうなっているのか。

事務局：余裕はない。民具の受け入れも年代や種類で絞る場面もある。今度七小と九小が合併するので、廃校になる九小にも民具の保管をお願いしたいが、まだ何とも言えない。

委員：民具の保管は全国的な課題。廃校に民具を保管している町でも、民具の整理の話が出ている。しかし大規模災害の際など、しっかり地域の歴史を保管していれば、それが地域復興の力になるはず。

事務局：予算の確保はどこでも問題になっている。国立科学博物館ではクラウドファンディングで9億集めたというが、普通の市町村ではなかなか難しいだろう。

委員：実際は集めたうちの3億は返礼品にあてたとのこと。

資料の保存と言えば、科博は筑波に倉庫を持っているが整理が追い付いていないようだ。

委員：民具の保存で言えば、同じ道具はひとつ保存すればいいという考えがあるが、実際はどの道具も一つ一つ使われた背景が違う、別の物になるのでできるだけ数多く集められることが理想である。

事務局：資料や民具を受け入れるときは、できるだけ聞取りをしてエピソードをセットで集めている。

委員：とても大事な視点である。

委員：道具が人につながっている。それが民具を伝えていく意義である。何がどのようにしてこの地域を作ったのかを伝える。

委員：現在ロビーで行っている小学生の自然観察の展示、大変よく葉っぱの観察ができています。

委員：吉岡堅二展の展示方法がとてもよかった。吉岡画伯の家族をテーマとしており、配置も見やすく内容も新鮮であった。

市報のわがまちの風物詩の連載も読んでいる。切株の顔づくりという話題から檜枯れを紹介している記事はとてもよかった。

委員：東大和市は身近に自然があり、触れ合えるのはとても良い環境である。千葉の海の文

化を伝える博物館に通っていた子どもがのちのさかなクンになったり、地元の郷土博物館に通っていた子どもが大人になって社会科の教師や学芸員になったりという例もある。上手く子どもたちに伝えていって欲しい。

委員：昔の道具調べに関して、今の小学校3年生の昔とはどれくらいの時代なのか。子どもには戦後でも昔だろうが、戦前と戦後ではまったく違う。生活の中で自然を活用していた時代の視点を伝えることも大切。

例えば、檜枯れの話があったが、檜枯れは雑木林を地域住民が活用しなくなり、林の新陳代謝がなくなると起こる。東大和市ではボランティアが雑木林の保存を目的に木を伐採しているが、戦前は生活のために木を切ってそれがそのまま林の管理につながっていた。そういった視点を伝えて欲しい。

委員：実際に三鷹で水車小屋の近くに修繕のための檜の木を植えていたり、岐阜の方で炭焼きが炭のための木を伐りながら傘のろくろの材料になるエゴノキを選別していたりといった事例がある。その地域では炭焼きがいなくなり、職人がエゴノキを入手しづらくなってしまった。

委員：学校などの教育現場は、グローバル化やDX化が求められており大変忙しい状況が続いている。職員会議も、具体的な課題に対し、短時間で結論を出し解決するということが求められている。しかし、すぐに結論が出ない事でも、子どもたちにどういったことを学校で学んでほしいかなどの議題を話し合える場が、本当は必要であると考えている。目の前の課題に取り組みつつ、生活のことや生きる知恵を学べる場としたい。

広報は博物館からの発信も大切。小中高校生も現在はタブレットを持っているので、HPで調べ学習ができるようなアーカイブが整っているとよい。インターネットをきっかけに調べたものを実際に見に行くとなれば学校と博物館の関わりの機会が増える。入口が大事。東大和市には変電所があるので、博物館に行かない学校でも社会の先生が折に触れ生徒に歴史を伝えている。実際に見に行く子もいる。

委員：SNSの時代なので、博物館で写真を撮っていい部分があれば表示をしてあるといいのでは。

委員：HPの閲覧数はわかるか。

事務局：博物館は独立したHPではなく、東大和市のHPの中に博物館のページを持っている状態なので、それほどいろいろなことはできない。市民の運営している東大和どっと

ネットというサイトに協力してもらい、そこからも発信している。

委員：会議室の貸し出しはしないか。博物館に触れるきっかけが増えるのでは。

事務局：普段は展示のための作業や、調査、打合せで使用している。見学グループや講演者などに使ってもらうこともあるが、公民館のように恒常的に貸し出すことは難しい。

委員：都がデジタルミュージアム構想の中で、地域の自然史資料について調査をしている。東大和市も参加できるとよいのでは。

事務局：先日調査があり回答している。

委員：デジタルアーカイブなどは進めているか。

データの整理ができると新しい展示の立案につながることもある。他市の事例で「箱」の展示があった。収蔵品のデータがしっかりあったので、様々な種類の箱を集めて展示することができた。その展示では、一角を市民の箱のコーナーとして、市民が持ち寄った箱にエピソードと添えて展示してあったり、博物館の模型を博物館は箱ものであるということで展示していた。

事務局：資料は Excel に入力しているが、写真も含めてデータ化しているのは吉岡画伯関連の資料だけである。

委員：不登校児の受け入れ先の一つとして博物館があってもいいのでは。

事務局：学校に行きづらくて博物館に来たという子どもの事例はある。そうしたケースでも、心配しないように学校に連絡は入れている。

委員：東大和市は、多摩湖を作って村が消えたり、工場を作って新しく南街ができたりという歴史がある。また変電所や吉岡家住宅などの性格の違う歴史建造物がある。東大和市の大事な魅力なので、しっかり発信して欲しい。

委員：民具はその地域のアイデンティティである。博物館をただの観光施設にとらえ来館者数ばかり気にする向きもあるが、地域の方がどれだけ活用できたかという視点が大切。

○その他

事務局：特に連絡事項はなし。来年度の会議については決まり次第連絡します。